

《氷見市立明和小学校》

平成 22 年度 重点目標を達成するための行動計画（アクションプラン）

— 学 習 指 導 —

アクションプラン 1			
重点課題	◎ 学習習慣の定着		◎ 読書活動の充実
現 状	◇ 思考力・判断力・表現力に課題があるため、学習中の「聞く・話す力の育成」（昨年度の取り組み）だけでなく、学校と家庭において基盤となる学習習慣を定着させていく必要がある。 ◇ どの学年も朝活動の時間に静かに読書する習慣が身に付いたが、昨年度の目標読書冊数に対する達成率は 74% だった。また、中・高学年の家庭読書は難しい状況にある。		
目 標	◇ 意欲的に家庭学習に取り組む児童が 80% 以上 ◇ 毎月、低学年 8 冊、中学年 4 冊、高学年 2 冊以上の本を読む児童が 80% 以上		
方 策			評価
			中間
1	学習が定着したり次時への意欲につながったりするように、一人一人に応じた家庭学習のやり方を指導する。		B
2	家庭学習のがんばりを賞賛し、よい取り組みを広める。		B
3	月に一冊お薦めの本を選び、紹介する。（お薦めカード・放送による発表）		B
4	図書だよりを発行して家庭での読書を奨励したり、教職員もお薦めの本を紹介したりして、読書のジャンルが広がるようにする。		C
総合評価	B	◇ 進んで家庭学習に取り組んでいる児童の割合は増加しているが、担任から見るとその取り組みの個人差が大きく、今後も指導を継続していかなければならない。 ◇ 5 月以降の各学年の達成率の全校平均は、目標の 80% を超えている。	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

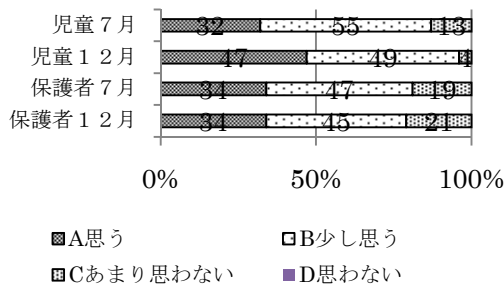
取 組 状 況

1 児童の実態と考察

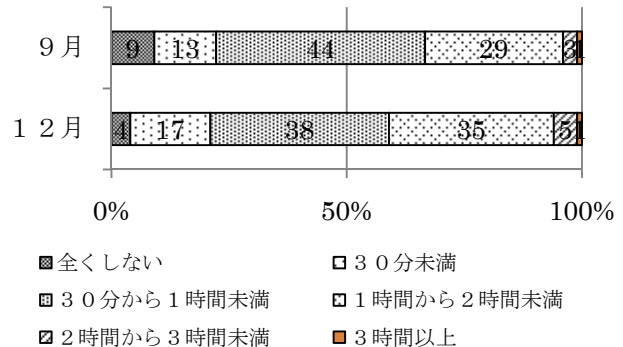
(1) 学習習慣の定着について

7 月と 12 月の「自分から進んで家庭学習に取り組んでいるか。」（資料 1）についてのアンケート結果を比較すると、児童の場合は A・B 評価が 87% から 96% に増え、家庭学習への意識の高まりが見られる。保護者評価では、7 月に比べ、あまり変化が見られないようである。これは、冬季の夜間卓球練習の開始まで放課後学校で学習する児童が増えたため、学習時間は伸びているが、保護者からは児童の様子が見えにくいためと考えられる。しかし、担任から見ると、児童は、苦手なところを意識して学習したり時間を有効に活用し課題に取り組んだりするようになってきたと評

進んで家庭学習に取り組んでいる (資料 1)



1 日の家庭学習時間（1 週間の平均）(資料 2)



価している。また、1日の家庭学習時間調べ（1週間の平均）（資料2）の結果でも、12月は1日1時間以上の児童が4割近くいる。それは、担任が一人一人に対して目的意識をもって取り組むように助言したからだと思われる。

(2) 読書について

児童の目標達成の状況は、9月以降どの月も85%以上あり、目標達成率は1学期に比べて向上した。児童アンケートでは、「朝の活動や読書の時間・休み時間などに、本をたくさん読んでいる。」が73%から79%に、「読書が好きだ。」が85%から92%に増えている。保護者アンケートの「家でよく本を読んでいる。」も64%から68%に増えている。

また、昨年と比べてよく読むようになった本のジャンルについてアンケートをとった。昨年度に比べて変化がないと答えた児童は全体の12%であり、80%以上の児童は他のジャンルへの読書を広めている。これは、児童の読書のジャンルが広がるように、調べ学習に役立つ本、歴史物など、読み物以外の本を意図的に購入し、図書だよりで紹介したこと、学級文庫に新たな本を加えたこと、図書室前に「とやま100冊の本コーナー」を設けたこと、教職員も感銘を受けた本について感想を書いたカードを図書室前に掲示したことなど、児童に働きかける読書環境を整えたことが効果的だったと思われる。さらに、友達と同じ本を読むという「読書リレー」を取り入れたことで、児童相互の読書に関する話題が増えた。次年度も読書意欲が高まるような取り組みを継続していきたい。

2 方策について

(1) 方策1

- ・ 基礎・基本の定着を図ったり、児童の苦手なところを家庭学習で取り組んだりするように、個の実態に合った家庭学習の内容を助言した。

(2) 方策2

- ・ 家庭学習ノートの児童たちの取り組みやがんばりカードに励ましの言葉を入れたり、よい取り組みが他に広がるように紹介したりした。また、いろいろな内容を提案し、その中から児童が自分に合った方法を選ぶように支援した。その結果、進んで学習したり、苦手なところに取り組んだりするようになってきている。

(3) 方策3

- ・ 1学期に引き続き、2学期も一人一人の「おすすめの本カード」を月1回、階段の踊り場に掲示し、全員のカードを放送で紹介する活動を続けている。おすすめの本のカードを書いたり掲示や放送で紹介したりしたことで、児童たちは自分の読書傾向を振り返り、読書のジャンルを広めている。

(4) 方策4

- ・ 図書だよりを発行して新刊図書を紹介したり、図書室に新刊図書コーナーを設置したりしたことによって、図書室の利用者が増加し、児童の読書意欲が高まった。
- ・ 「絵本・物語」「科学読み物」「伝記・歴史」「ノンフィクション」「その他」と児童のカードと同じ色分けをして、教職員の感想を図書室前の廊下に掲示した。

次年度へ向けての改善点	読書リレーは児童の読書意欲を高めるのに効果的だったので、いろいろなジャンルを取り入れて進めていきたい。
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

学校関係者評価書	学校関係者評価委員	5名
	学校関係者評価委員会の実施日	6月1日、8月24日、2月1日
項目	意見	
目標達成の状況	・ 読書や家庭学習の習慣については、少しずつよくなってきているのではないかと。	
方策の取組状況	・ 今後も子どもたちがどのような家庭学習をしているのか実態を把握し、一人一人に合ったアドバイスをしていってほしい。 ・ 「おすすめの本カード」を掲示してあるのは、とてもよいことだ。それが読書刺激になり、同じ本を読んでみようという子どもたちが増えたのではないかと。	
改善点	・ 家庭学習の内容面だけでなく、時間の使い方の工夫を指導する必要がある。	

— 生徒指導 —

アクションプラン2				
重点課題		◎ 思いやりの心の育成（自分・相手・もの）		
現状	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分に自信をもつことや自己肯定感の低さが気になる。そこで、温かい人間関係づくりに努め、自尊感情をはぐくんでいきたい。 ◇ あいさつについては、概ね目標を達成しているが、継続して取り組みたい。 ◇ 身の回りの整理整頓や使ったものの後片付けが苦手だという実態が学校でも家庭でも明らかになった。親子で一緒に取り組みたい。 			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分にはよいところがあると自信をもつことができる児童の目標達成率 80%以上 ◇ 自分から元気よく、友達・家族・地域の人にあいさつした児童の目標達成率 80%以上 ◇ 使った物の整理整頓ができた児童の目標達成率 70%以上 			
方 策			評価	
			中間	年度末
1	自信をもって学校生活を送ることができるように、全校の朝の活動、授業、帰りの会などで児童をほめたり児童同士互いを認め合ったりする場を設ける。	B	B	
2	道徳の時間は、「生命尊重」「思いやり・親切」などの内容を重点的に指導し、自己を見つめる書く活動を取り入れるなど、その充実に努める。	C	B	
3	学期に1回程度、思いやり週間を設け、あいさつ・整理整頓・やさしい言葉がけについて自己評価する。	C	B	
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自己評価による目標達成率（A・B評価）を見ると、自分のよさ見つけは 80%以上、あいさつは 90%以上の数値を示しているが、Aの割合を高くしたい。 ◇ 使った物の整理整頓は、70%以上の目標達成率であるが、Bの割合が高い。保護者が見た、子どもの家での整理整頓は 50%以下の数値である。 		

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取組状況
<p>1 児童の実態と考察</p> <p>(1) 自尊感情について</p> <p>児童、保護者では、1、2学期共に、目標達成率（A・B評価）80%以上となっている。全体的には、1、2学期で大きな変化が見られない。その中でも、児童では、C、Dの割合が少なくなっている。C、DからBに変わった児童は、「勉強に少し自信がついてきた。」「前より、発表するようになった。」など、自分のよさを感じることができるようになっている。保護者では、Cの割合が少し増えている。「元気に勉強したり運動したりしているのかな。」など、自分のよさを十分に発揮しているか気にかけている。</p> <p>アンケート結果で気になったのは、1学期にBの割合が高かったが、Aの割合が昨年に比べて低くなっていたことである。児童は、「運動しているけれど、もっと練習すれば、まだうまくなれる。」、保護者は、「もっと勉強すれば、もっと成績が伸びるはず。」教員も、「もっと友達のよさを認め、思いやりの心をもつことで、もっと仲よくなれる。」など、さらなる高まりを期待している面もみられた。</p> <p>(2) あいさつについて</p> <p>全体的には、目標達成率（A・B評価）80%以上となっている。ここでも、(1)の自尊感情と同様に、1学期にAの割合が低かったが、2学期には、昨年と同じ数値にまで高まっている。数値はよくなっているが、毎日見ている児童の様子から、もっと大きな声で元気よく積極的にあいさつをするように指導することが必要だと思われる。</p>

(3) 整理整とんについて

学校での整理整とんの数値はよくなっている。家での整理整とんは、児童では、目標達成率（A、B合わせた数値）70%以上となっているが、保護者からみると50%以下である。児童は、「家や学校で整理整とんをしている。」と述べているが、保護者の目で見ると「できていない。」「言われないと整理整とんをしない。」と感じている。また、児童の回答を見ると、A、B、C、Dどのパターンもあるので、不十分なところは励まししながら、個々の実状に合わせた粘り強い指導が必要である。

2 方策について

(1) 方策1

- 各学級では、「きらきら見つけ」「すてきな実」などのネーミングで、自分や友達のよさ・がんばりを見つけ、その内容について発表したり書いて掲示したりして、よさ・がんばりを広める工夫をした。

(2) 方策2

- 読み物資料の世界に浸る、友達日記の活用、下級生のことを考えた行動の想起などをし、友達に親切にしたりされたりしたときの気持ちよさを共感できるようにした。
- 「心のノート」を積極的に活用し、自己を見つめるようにした。

(3) 方策3

- 6月、11月に思いやり週間を設け、生活委員会による「生活振り返りカード」で、「あいさつ」「整理整とん」「思いやり」の振り返りを行った。家の方のコメントには、「あいさつはよくできています。」「自分だけでなく、家族のくつもそろえていました。」「思いやり週間だけでなく、ずっとがんばりましょう。」など、賞賛や励ましの言葉がたくさん寄せられた。
- 給食時に、生活委員による「友達のよさ見つけ」の放送を行った。友達や教師が見つけた児童のよさを広めることで、みんながもっているすばらしさに改めて気づくことができた。

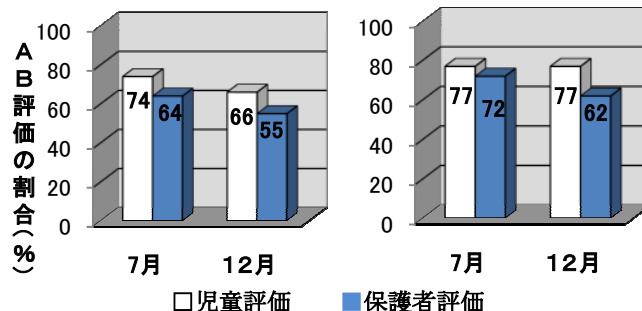
次年度へ向けての改善点	<ul style="list-style-type: none">学級で児童のよさを積極的に見つけたり認め合ったりする。よさを広めるために、全校の朝の活動、校内放送の場を積極的に生かしていく。読み物資料の分析・教材研究、児童の生活との関連性、書く活動の重視など、道徳の時間の指導を工夫して心情が高まるようにする。児童生活委員による積極的な活動、家庭との連携も考慮しながら、元気なあいさつ、整理整とんの意識をさらに高め、実践できるようにする。
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

学校関係者評価書	学校関係者評価委員	5名
	学校関係者評価委員会の実施日	6月1日、8月24日、2月1日
項目	意見	
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none">引っ込み思案の傾向にあるので、もっと自信をもって活動してほしい。あいさつはしているが、もっと進んで元気よくしてほしい。整理整とんは、家庭での状況があまりよくない。	
方策への取り組み状況	<ul style="list-style-type: none">自分や相手のすばらしさに気づくよさ見つけは有効である。学校だけでなく、家庭でも取り組むあいさつ・整理整とん週間の設定は、有効である。	
改善点	<ul style="list-style-type: none">一人一人が意見を述べる場、よさを賞賛する場を増やし、積極性、自分に自信をもつこと、自分のよさに気づくことを大切にしたい。児童会、委員会の活動を活発にし、自分たちの力でよさを伸ばし、不十分な点を改める意識を高め、努力する態度を育てる。	
その他	<ul style="list-style-type: none">学校、家庭、地域の連携を大切に、児童の実態を把握しながら、児童のよりよい成長を支援していく。	

アクションプラン3				
重点課題		◎ 健康な体づくり		
現状	◇ 昨年度は、逆上がり・壁倒立ができる児童が70%以上を目標として取り組み、概ね達成した。しかし、一方で、日常的に運動している児童とそうでない児童の二極化が見られるため、全校児童が多様な運動に慣れ親しむようにする必要がある。 ◇ 昨年度は、早寝強調週間等を設けて取り組み、児童や保護者の早寝に対する意識が高まってきた。しかし、まだ就寝時刻や起床時刻の遅い児童がみられ、生活改善の必要がある。			
目標	◇ 「みんなでチャレンジ3015」達成率80%以上 ◇ 早寝早起きの目当てを達成できたと自己評価する児童の目標達成率80%以上			
方 策			評価	
			中間	年度末
1	週1回チャレンジタイムを設定していろいろな運動に取り組ませたり、発表の場を設けたりする。	B	B	
2	児童の実態を基に教師の研修会を行い、指導力の向上を図る。	B	A	
3	健康づくりノートを活用し（5月、10月に記入）、家庭と連携しながら早寝早起きだけでなく、児童の生活全般に対する意識を高める。	B	B	
4	早寝早起き強調週間を実施するとともに（6月、11月）、早寝早起きの大切さについて集会等で考える場を設ける。	B	C	
総合評価	B	◇ 「みんなでチャレンジ3015」の達成率は73%であったが、いろいろな運動に取り組ませることができた。 ◇ 早寝早起きの達成率は72%と目標に届かず、指導の継続が必要である。		

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取 組 状 況	
1 児童の実態と考察	<p>(1) 運動への取り組みについて</p> <p>年度末の児童アンケート『チャレンジタイム』や『みんなでチャレンジ3015』を通して、進んで運動に取り組んだ。」では、89%がA・B評価をしており、意欲的に運動している児童が多い。「みんなでチャレンジ3015」は、ゴールまで到達した児童は39名（12月20日現在）で73%であった。達成率をより高めるためには一人一人の意識を継続させる掲示や呼びかけなどの工夫が必要である。</p> <p>(2) 早寝早起きについて</p> <p align="center"><早寝についての評価> <早起きについての評価></p> <p>早寝についての7月と12月のA・B評価を比較すると、児童評価が74%から66%に、保護者評価は64%から55%へと下がっていた。早起きについては、早寝の評価よりも全体的にやや高めであるが、児童評価が7月・12月ともに77%、保護者評価は72%から62%と下がっていた。</p> <p>実践できなかった理由として、見たいテレビがあることや帰宅後寝るまでの時間が短いこと、家庭の事情で早く寝ることができないことなどが挙げられる。また、昨年度も夏から秋、冬へと季節が移るにつれ、早寝早起きの実践意欲が薄れていく児童がみられた。目標達成に向けて、限られた時間のつかい方の工夫や実践意欲を高めるための手立てが必要である。</p>



2 方策について

(1) 方策 1

1 学期から継続して毎週水曜日の朝にチャレンジタイムを実施し、縦割り班ごとに、3 分間マラソン、鉄棒、壁倒立、長縄跳びを行った。雨天の日には、長縄跳び、短縄跳び、一輪車などの運動を行った。一輪車は今年度、ベルマークで購入した物で、児童は早く上手に乗れるようになりたいという願いをもち、意欲的に練習を始めた。また、体育委員会の児童が「ブリッジ」や「V 字パランス」など簡単にできる運動の紹介を行い、全校児童でやってみる場を設けた。

10 月に 2 回目の「鉄棒ミニ集会」を、11 月に壁倒立の発表会を実施した。一人一人が自分の力を発揮しようと真剣な表情で取り組んだ。

(2) 方策 2

教員の研修会を次のように実施した。

1 回目 6 月 「チャレンジタイム」の内容や鉄棒運動の指導法

2 回目 10 月 壁倒立の指導法

3 回目 12 月 一輪車の指導法

研修したことを指導に生かすようにした結果、逆上がりができる児童は、28 名(4 月)から 35 名(12 月)に増加し、壁倒立ができる児童は、35 名(4 月)から 44 名(12 月)に増加した。



<壁倒立の研修会>

(3) 方策 3

5 月と 10 月に健康づくりノートを活用し、「とやまゲンキッズ作戦」を実施した。その結果「テレビ・ゲームの時間」「手伝い」「自分で使った物の片付け」「姿勢」などの項目について、グリーンゾーンの児童が増加した。しかし、就寝時刻や歯の健康面で、まだ問題のある児童がみられた。

これらの結果を保健だよりで保護者に知らせ、よくなったことや今後の課題を共通理解するようにした。児童にもミニ集会で養護教諭が結果を伝えた。クイズ形式を取り入れたことにより、児童は意欲的に考えたり話を聞いたりしていた。また、2 回目の健康づくりノートへの記入後に「健康づくり週間」を設け、一人一人が自分の目当てを決めて毎日チェックカードに記入しながら取り組んだ。

(4) 方策 4

6 月と 11 月に「早寝早起き強調週間」を実施した。この結果、早寝の目当てをだいたい守れた児童は 66%から 60%へ、早起きの目当てをだいたい守れた児童は 60%から 56%へとどちらも減っていた。早寝早起きの大切さについて保健委員がミニ集会で紹介したり「早寝早起きチェックカード」を活用したりしたが、結果がこのように低下していることから、日常の早寝早起きの習慣化は難しいと思われる。

<p>次年度へ向けての改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなでチャレンジ 3015」の達成意欲が継続するように、掲示や呼びかけなどの手立てを工夫する。積極的に運動しない児童に対し、個別指導を行う。 早起きにも重点を置き、早寝につなげるようにする。早寝早起きの習慣化を目指し、実践意欲を高め、継続させるための個別指導や学級指導の内容・方法を工夫する。
<p>公開の方法</p>	<p>育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ</p>

<p>学校関係者評価書</p>	<p>学校関係者評価委員</p>	<p>5 名</p>
	<p>学校関係者評価委員会の実施日</p>	<p>6 月 1 日、8 月 24 日、2 月 1 日</p>
<p>項目</p>	<p>意見</p>	
<p>目標達成の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童は意欲的に運動している。 早寝早起きが習慣化しにくいのは、児童を取り巻く現代の生活環境にも原因があると考えられる。 	
<p>方策の取組状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康な体づくりに向け、継続していろいろな方策を行っている。 	
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早寝早起きを習慣化するためには、児童だけでなく家族ぐるみで意識して取り組むよう、連携を図っていく必要がある。 	